２．主催者挨拶、技監挨拶

（１）主催者挨拶　藤井友竝 国土技術政策総合研究所長

写真－１　主催者挨拶（藤井所長）

国土技術政策総合研究所所長の藤井でございます。本日は国土技術政策総合研究所設立記念式典の行事の一環としまして、シンポジウムを開催いたしましたところ、ご多忙中にも係わらず、また足元の悪いなか、このように多くの皆様方にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。期待の重さに改めて身の引き締まる思いでございます。

ご案内のように国土技術政策総合研究所は国土交通省土木研究所・建築研究所・港湾技術研究所の技術政策に係わる部門が統合再編されて、この４月１日に国土交通省の研究所として新たに設立されたものでございます。その役割は国土の利用開発及び保全のための社会資本の整備に関連する技術で、政策の企画立案に関するものの総合的な調査・試験・研究開発を行うこととされております。

一方で中央省庁等改革の一環としまして先の３研究機関が独立行政法人に移行する過程のなかで、国土技術政策総合研究所が取り組むべき研究分野として国が自ら実施する必要があると考えられる、次の３つの分野が掲げられました。一つは本省の政策立案の一環としての研究開発、いわゆる政策支援。２つ目には法令に基づく技術基準の策定に関する研究開発、いわゆる技術基準。３番目に直轄事業の執行管理に必要な研究開発、あるいは法令に基づく地方公共団体等の技術指導、いわゆる技術支援といったものでございます。

しかしながら、個々の研究者が技術開発や研究に取り組むためにはこれらの分野や課題の内容をさらに具体化していかなければなりません。国土技術政策総合研究所では４月の設立以来、この研究所は何をなすべきか、技術開発や研究にどのように取り組むべきか、等について議論し検討し整理を進めているところであります。

特に３つの研究所が統合されましたメリットが十分に発揮されるようにすること、技術政策研究所としての特色が十分に発揮されることに留意をしながら議論を進めてきたところでございます。未だ道半ばでございますが、最初が肝心であるということで、できるだけ幅広くご意見を伺って、進むべき方向を見い出していこうと考えているところでございます。このシンポジウムもその一環であるというふうに考えております。森地先生並びにパネラーの皆様には大変お忙しい中を曲げてご参加をいただきましたことにお礼を申し上げまして、冒頭の主催者挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いをいたします。

（２）挨拶　国土交通省 青山俊樹 技監

ただいまご紹介いただきました国土交通省技監の青山でございます。国土技術政策総合研究所設立を心から皆様とともにお喜び申し上げたいと思います。１月６日に21世紀の国土交通省が発足いたしました。発足に先立ちまして、若手の職員を中心に国土交通省の目標ということについてのいろんな議論を行いました。また、パブリック・インボルブメントも含めて議論を進めてきたわけでございますが、５つの目標を設定いたしました。

写真－２　挨拶（青山技監）

１つは、「生き生きとした暮らしの実現」でございます。２つ目は「競争力のある経済社会の実現」でございます。３つ目が「安全の確保」、４つ目が「美しく良好な環境の創造」、そして５つ目が「多様性のある地域づくり」、この５つでございます。

まず最初の「生き生きとした暮らし」というキーワードでございますが、これは私ども意識の面では非常に大きな転換だと思っております。われわれの目指す国土マネジメントの究極の目標の一つは、人々の暮らしにあると。住宅・社会資本整備という営みは、これはそのための手段であるということを明確に位置付けたものだと、私は理解いたしております。人々が本当に生き生きとした暮らしをするためには、どうすればいいかという目標に向かって考えていくということだろうと思います。

「競争力のある経済社会の実現」、これは当然のことでございます。これから人口がピークに達し、そして減っていく。それも急激に減っていくわけでございますが、そのなかでいかに経済力を維持していくか。戦後ほとんど廃墟になった都市、そして荒れ果てた山河から出発して、世界第２の経済大国と言われるところまでの経済力をもってきたわけでございますが、これは素晴らしい私どもの諸先輩の働きがあったわけでございますが、人口が減るなかでどうやって維持していくのかという、非常に大きなテーマだろうと思います。

３つ目の「安全の確保」、これも言うまでもございません。日本ほど地震・火山活動等集中している国もないわけでございまして、地球全陸地の０．１％に過ぎないこの国土に、地震・火山エネルギーの１０％が集中しているわけでございます。また細長い列島の中に中央に高い山地が走り、そこから急勾配で川が流れ、洪水の危険、渇水の危険、そしてまた軟弱地盤という国土条件に悩まされているわけでございまして、これも非常に大きなテーマだろうと思います。

また、何よりも強調したいのは、４つ目の目標の「美しく良好な環境の創造」でございます。美しさというものについて、私ども戦後、量的な充足、またとにかく溢れない川をつくる、とにかく渋滞しない道路をつくるということで、一生懸命やってきたわけでございますが、それはそれなりにある程度の成果は得られたわけでありますが、やはりこれから質的な問題、また環境に十分配慮した社会資本の整備の仕方、国づくり・町づくりをや

っていかなければいけないだろうと思います。そんななかに美しさというのは大いに心して取り組むべきテーマだろうと思っております。

さらには、５つ目の「多様性のある地域づくり」、これも戦後の経済成長を支えたのは、東京から地方にいろんな指示指令を出し、それを地方が忠実に実行するというシステムでここまでやってきたわけでありますが、これはこれで非常に効率性という意味では効果があったわけでありますが、むしろこれからは地方がそれぞれ創意工夫を凝らし、知恵をしぼって地域づくりをやっていく時代になったんだろうという認識でございます。確かに量的な充足はある程度してきたわけでございますが、全国各地どこでもあるような町・川・道路沿線の風景というふうなことになってきたわけでありまして、もっともっとそれぞれ文化、歴史、また風土の異なる日本列島でございますので、それぞれの地域で独自の知恵と工夫を凝らして地域づくりをやっていくという視点が大事なんだろうと思います。

５つの目標を申し上げましたが、今社会資本整備、もしくは国土づくりに対していろんな議論が湧き起こっているわけでございますが、この基本的な目標を見据えながら、また６万６千人の職員がそういった目標を共有しながら、国土づくりを皆さんと一緒になって進めてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願い申し上げたいと思います。

最後になりましたが、基調講演をやっていただきます森地先生初め諸先生、またパネリストの皆様方に心から敬意を表しまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。